



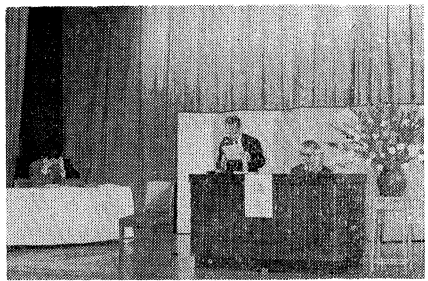
決算報告をする蔵副会長



事業報告を行なう高橋理事



監査報告をする白川監事



総会会場

る。会誌「自動車技術」はおおぼな予算増が考慮され、さらに内容の充実、増ページ化がなされよう。

各種刊行物では、「自動車工学ハンドブック」や諸元表、技術会創立20周年史など刊行される。

技術委員会は前年継続し、新たに材料関係、加工関係の委員会を設けるとともに、石油に関する諸問題について引き続き石油学会と検討をする。

規格委員会は20余項の新規と見直しなどを含め、ますます活発化されるものとみられる。

第5号議案：昭和43年度予算に関する件。

本件、蔵副会長より説明が行なわれとくに収入の部では新会員を600名増員をみこみ、賛助会員、図表、広告料収入などで増収をみこむ。

支出では、会誌「自動車技術」へ150万円の増額、各支部へは会員数に比例してさらに増額される。

以上、別掲のとおり承認された。

第6号議案：名誉会員推せんの件つぎの三氏が推せん承認された。川越庸一氏（大同メタル工業取締役社長）

山口 作氏（日本発条顧問）

前田利一氏（日産自動車顧問）

川越名誉会員が代表して自動車業界、技術会の発展のために今後も労を惜しまぬ旨あいさつが行なわれた。

以上、提出議案を異議なく承認しおわりに蔵副会長の閉会の辞が行なわれ終了した。

▶第18回自動車技術会賞授賞式

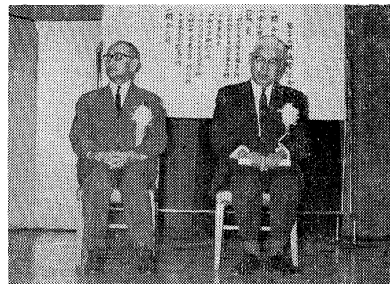
昭和43年5月14日（火）11：30～12：10。東京半蔵門「東条会館」において開催された。

蔵副会長のあいさつのうち、田中敬吉審査委員長からとくに学術賞について概要報告が行なわれた。

自動操縦によって定められた路線に沿って、安定に自動車を走行させるためには進行方向と直角方向の変位が一定値をこえてはならないから、路線の中心からの横方向へのずれを検出して舵角にフィードバックする必要がある。これを実施するために走行路線の中央に交流電流を通じたケーブルを埋設して、それによって強度の変化を検出することによって自動車の横方向のずれを求めるとする方式の研究に着手し、良好な誘導を行なうためのケーブルの電氣的特性な



あいさつする川越名誉会員



左から川越、前田の両名誉会員▲



審査経過報告をする田中審査委員長



受賞者諸君へお祝いの言葉を述べる小林名誉会員

らびに埋設方法を究明し、コース全長にわたる実在波、励振周波数の選定と供給電力のあいだの関係を確かめ、自動車を自動的に誘導するための交流電界による誘導方式の設計法を確立した。

このことにより、自動車の高速における極限状態の特性、安全局限に関する研究など人間を乗せた状態での実験が、不可能な状態での研究をすすめることが可能となつたことは、自動車工学人間工学の分野における基礎的、応用的研究の進展に大きな貢献を行なうものと期待される。

以上、審査報告につづいて五十嵐会長よりつぎのかたがたへ賞状ならびに記念品が贈られた。

<学術賞>

自動操縦に対する誘導システムの研究

松本俊哲君（機械試験所主任研究員）

猪俣真三郎君（ " " ）

鈴木康夫君（ " " ）

（授賞の理由）

この研究は昭和37年度から41年度にわたって行なわれたもので、自動操縦車を所定のコースに沿って誘導するためのケーブルシステムならびに車両側の計測方式に関するものである。

この研究によつて上記システムについての解析方法と実験方法が明らかにされ、それにもとづいて設計方法と実験方法が明らかにされ、それにもとづいて設計方法が確立された。そしてこの研究結果は自動車高速試験場および数社のテストコースに利用され、高速時の自動車の安全性研究の今後の進展に対し貢献した。

（略歴）

松本俊哲君

昭和3年3月9日生れ。昭和30年大阪大学工学部通信工学科卒業。昭和30～36年気象庁にて気象用レーダーならびにラジオゾンデの業務に従事。昭和36～41年機械試験所にて自動操縦機構の研究に従事。

猪俣真三郎君

明治43年1月14日生れ。昭和7年



左から松本, 猪俣, 鈴木, 西山, 野場, 牛島, 酒井の受賞者諸君

10月電気学校専修科卒業。昭和13年機械試験所へ入所。電気計測, 自動制御, 自動操縦機構などに関する研究に従事。

鈴木庸夫君

昭和9年11月26日生れ。昭和41年3月東京理科大学理学部理学科卒業。昭和36年5月機械試験所へ入所。自動制御, 自動操縦機構などの研究に従事。

＜技術賞＞

わが国の自動車工学, 技術の研究に関する長年の貢献

西山新一郎君 (東大生産技術研究所)

(授賞の理由)

昭和26年から自動車試験台の設置と新しい実験法の開発実施につくした。同試験台による三枚ばねの実験研究を推進した。昭和30年ごろ流体高速機付き自動車性能に関する実験の遂行にあたり大きな貢献をなし, 現在の国産技術の基を固めるのに功績があつた。また, 自動車技術会の研究車の管理, 数多くの運行試験にも協力した。

(略歴)

西山新一郎君

明治41年4月12日生れ。昭和6年梁瀬自動車入社, 同8年退社。昭和10年東大航空研究所技手任官。昭和21年同所解散のため退官。昭和21～25年栄モーター(株)に勤務。昭和25年東大第二工学部勤務。昭和26年東大生産技術研究所勤務, 現在にいたる。

＜技術賞＞

自動車部品の精密機械加工法の開発の向上

野場省一君 (トヨタ自工機械技術部次長)

(授賞の理由)

32年間の永きにわたり機械加工に従事し自動車部品の精密機械加工における刀具と被削部品との関係, 研削条件などの現象の究明に努力し, 刀具の寿命延長, 加工時間の短縮, 精度の向上, 機械の自動化をはかり, 多くの機械加工作業の改善・改良を実施し, 自動車製造技術の向上に貢献した。

(略歴)

大正3年1月18日生れ。昭和3年3月高等農業補習校卒業。昭和11年11月トヨタ自動車工業(株)入社。昭和25年7月同社工機工場第2作業係長に命ぜらる。昭和38年2月工機部第1工機課長補佐に命ぜられる。昭和42年6月機械技術部次長となり現在にいたる。

＜技術賞＞

小型自動車用ガソリンエンジン(G15)の開発

牛島 孝君 (日産自動車第5設計部第1エンジン課長)

酒井靖郎君 (日産自動車第5設計部第1エンジン課長代理)

(授賞の理由)

高速高出力の小型自動車機関を研究し, 1,483 cc シングルキャブレター普通ガソリンにて最高出力 88PS/6,000 rpm, 最大トルク 12.2kgm/4,000 rpm の高性能を発揮し, 経済性信頼性のある小型4シリンダエンジンを完成し, 自動車機関の高性能化に貢献した。

(略歴)

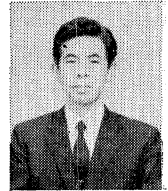
牛島 孝君

昭和5年10月12日生れ。昭和28年東大工学部機械工学科卒業。昭和28年富士精密工業(株)へ入社。昭和42年日産自動車(株)第5設計部第1エンジン課長。

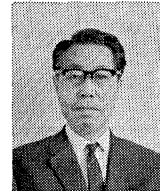
酒井靖郎君

昭和4年4月30日生れ。昭和28年東大工学部応用物理学科卒業。昭和28年富士精密工業(株)へ入社。昭和42年日産自動車(株)第5設計部第1エンジン課長代理。

以上, 7君へそれぞれ五十嵐会長



松本俊哲君



猪俣真三郎君



鈴木康夫君



西山新一郎君



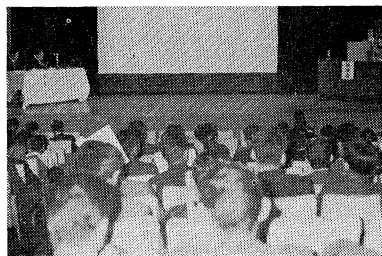
野場省一君



牛島 孝君



酒井靖郎君

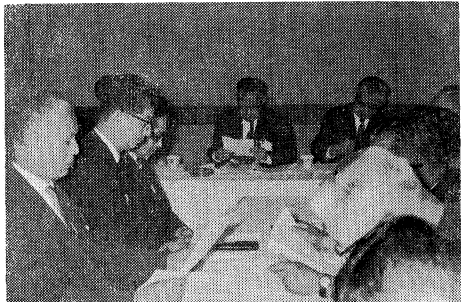


◀終始議員の講演会場

理事名簿 (昭和43~44年度)

順不同

| 役名 | 氏名 | 所属 | 役名 | 氏名 | 所属 | 役名 | 氏名 | 所属 |
|------|-------|--------|----|------|------|-----|----|-----|
| 会長 | 藤 尚一 | トヨタ自動車 | 理事 | 近藤 政 | 市雄厚 | 農玉東 | 工大 | 大工研 |
| 副会長 | 斎藤 健 | トヨタ自動車 | 理事 | 山本 理 | 野見山 | 大自 | 工大 | 大工研 |
| 東支部長 | 青木 折木 | 信三司 | 理事 | 福北 村 | 吉 郎 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 荒川 原 | 信三司 | 理事 | 小島 吉 | 新三 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 高岩 崎 | 信三司 | 理事 | 田島 武 | 良 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 横山 五郎 | 信三司 | 理事 | 坪田 居 | 武清 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 中百 瀬 | 信三司 | 理事 | 土成 長 | 谷川 太 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 荒柳 野 | 信三司 | 理事 | 足田 山 | 丸三 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 石川 原 | 信三司 | 理事 | 三井 井 | 井 井 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 藤 尚一 | 信三司 | 理事 | 近藤 政 | 市雄厚 | 農玉東 | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 斎藤 健 | 信三司 | 理事 | 山本 理 | 野見山 | 大自 | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 青木 折木 | 信三司 | 理事 | 福北 村 | 吉 郎 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 荒川 原 | 信三司 | 理事 | 小島 吉 | 新三 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 高岩 崎 | 信三司 | 理事 | 田島 武 | 良 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 横山 五郎 | 信三司 | 理事 | 坪田 居 | 武清 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 中百 瀬 | 信三司 | 理事 | 土成 長 | 谷川 太 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 荒柳 野 | 信三司 | 理事 | 足田 山 | 丸三 | トヨタ | 工大 | 大工研 |
| 支部長 | 石川 原 | 信三司 | 理事 | 三井 井 | 井 井 | トヨタ | 工大 | 大工研 |



第1回評議員会 (正面左から副会長、五十嵐会長)



第1回評議員会会場

から賞状ならびに賞品が授与された。また、小林 明名誉会員から受賞諸君へのお祝いの言葉があり式を終了した。

- ▶春季大会工場見学会
昭和43年5月15日(水) つぎの3班に分かれて見学会が開催された。
1班 日産自動車追浜工場 (142名)
2班 トヨタ自動車上郷・高岡工場 (95名)
3班 本田技研工業狭山製作所 (145名)

▶第1回評議員会
昭和43年5月14日(火) 10:30~11:00 東京半蔵門「東条会館」において開催。
出席評議員: 斎藤 尚一, 前田 白井(武), 菅原 織田, 入谷 山田(村尾

代), 藤井 黒目, 中沢 西坂, 大野 魚住, 福川 永石, 小野原 滝口, 荒川 小島, 長谷川 宮田, 豊田(英), 新山 高橋, 牧村, 田中(孝), 白井(直), 莊村, 野寺, 五十嵐, 稲川, 鈴木の各評議員。

委任状提出評議員: 140名。
議事: 事務局から本日の出席評議員ならびに委任状提出評議員数を報告, 評議員209名中172名の出席をもつて過半数以上に達し, 第1回評議員会成立の旨報告, 五十嵐会長を議長に推し, ただちに議案の審議に移る。
第1号議案: 昭和43~44年度役員選出の件。
五十嵐会長から理事選出方法について各支部ごとに割当定数を選ぶ

とを提案, 一同これを了承し審議の結果それぞれ別掲のとおり選出可決された。

つきに監事については審議の結果宮田康久, 白井直光の両氏が選出され可決された。
会長, 副会長については審議がすすめられ会長には斎藤尚一氏, 副会長には斎藤 健一, 吉城肇の両氏が満場一致をもって推せん可決された。
ついで, 支部長には関東支部長に青木正信氏, 中部支部長に小島吉郎, 関西支部長には村尾時之助氏, 九州支部長に甲斐島 衛氏を選出, 可決された。

また, 会長推せんによる理事にはつぎの4氏が推せん可決された。
近藤政市, 野見山 勉, 石原智男, 北村正雄の各氏。

昭和43~44年度評議員氏名

順不同

| 氏名 | 所属 | 氏名 | 所属 | 氏名 | 所属 |
|-------|-----|--------|-----|-------|-------|
| 上田 利英 | 通産省 | 種子島 時彦 | 防衛庁 | 吉瀨 立木 | 野口村 |
| 堀山 健 | 運輸省 | 久保 折部 | 国交省 | 宮三 正忠 | 男郎 |
| | | 桑 謙三 | | 日 東 | トヨベツト |
| | | 建 部 | | 東京 | トヨベツト |
| | | | | トヨ | ベツト |
| | | | | ベツト | ベツト |